

# 子どもが売られない世界をつくるために

かものはしプロジェクト 草薙 直基様

私がこの問題に関心を持ったきっかけは大学生の時のベトナム訪問です。ベトナム人の友人がいるのですが、彼の実家への帰省に連れていってもらいました。ベトナムに着いてからたくさんのぼろぼろのテントのような家に住んでいる家族を目の当たりにする機会がありました。明らかに十分にご飯を食べられていない家族をたくさん見て「彼らは何か悪いことをしてその罰としてこのような生活を強いられているのだろうか。」と考えました。そう考えた時に私は違うのではないかと思います。彼らが貧しい生活を強いられているのはただただ、生まれ落ちた場所がベトナムの貧困街であったというそれだけの理由ではないかと思ひ、そんなのはおかしいと思ひました。そのようなアンフェアな現実が未だに世界にあるのであれば、そのような問題をなくすために今後活動したいと思ひ、その時から貧困問題や社会問題に興味を持ち出し、今もこのような活動を続けています。

さて、かものはしプロジェクトの活動内容ですが、2002年から活動を開始しています。最初は1990年代から子どもの被害者が急激に増えていたカンボジアという国で「子どもを買わせない・売らせない」ように活動を開始しました。

「子どもを買わせない」ために、警察が加害者を逮捕できるようにNGO団体とカンボジア政府と協力し、警察官への訓練に資金を提供しています。法律が改正されても地方の警察には情報が提供されていなかったり、証拠を押収する知識がないために裁判を起こしても無罪になってしまったりという状況がありました。ですが、これらの活動を進めてきた事により、加害者や売春宿の摘発件数が増加しています。

「子どもを売らせない」ための活動としては、カンボジアのい草で生活雑貨をつくる工房を運営し、貧しい家庭の大人に就業の場を提供することで、子どもが出稼ぎに出なくてははいけない状況になることを未然に防いでいます。

カンボジアの状況は2000年以降で大きく改善してきていますので、次に状況が酷かったインドでも2012年から活動を開始しました。インドでは加害者が裁判でほとんど処罰されていないので、加害者への有罪判決率を上げるために被害者の裁判支援を行っております。

また、被害に遭った女性を救出し、心のケアや、経済的に自立するための仕事作りを通して被害にあった子どもや女性が人生を取り戻せるように支援を行っています。また、一人一人の被害者支援をしていく中でわかってきたことを、こういった問題が起こらない社会の仕組みを作るための支援に活かしています。具体的にはインドの中央政府がさらにこの問題に対する対策を取るようになってきましたので、政府に現場の状況を伝えて、政府にも動いてもらいながらこういった犯罪が起こらない社会を作っていきたいと思っています。

なお、新型コロナウイルスの影響はインドという国においても大きく、感染拡大によるロックダウンとともに活動をしているサバイバー（人身売買被害者）リーダーたちが日雇いの仕事ができずに収入がなくなったり、2020年5月にスーパーサイクロンがインドに直撃し、サバイバーリーダーたちの家が流されるなど、大きな影響を受けています。全土封鎖以降、人身売買、性的虐待、幼児婚が次々と報告されている今、あらためて、私たちは自分たちの活動の意義を感じています。この局面で迅速に対応すること、そして、中長期的な視点で活動を継続させ社会全体を変えていくことが大事だと考えています。

日本での活動も2019年から開始をしており、日本国内における虐待の問題をなくすために現在調査など含め、活動を開始しております。

活動をしていると様々な問題が起きますが、前を向いて活動を継続することが重要だと思っています。いただいたご寄付は問題解決に大切に使用させていただきます。

引き続き、当団体の活動を見守っていただけますと幸いです。



西村会長より今年度の支援金とお車代を贈呈

創立 1993年10月13日(平成5年)

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30

事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2

グラントマン9段906号

Tel: 03-3288-7300 Fax: 03-3288-7400

<http://tokyo-orc.jp/>

E-mail: ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp

例会場 東京ドームホテル

〒112-8562 東京都文京区後楽1-3-61

TEL. 03-5805-2111(代表)

会長: 西村美智子 幹事: 海江田健司

会報委員長: 佐々木啓策

会報委員: 張、土居、神保、奥山、八木、山下